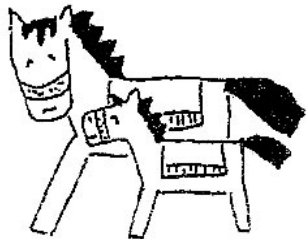


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポッキリ、ポッキリと

30年 8月 NO.285



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://oumanooyako.sakura.ne.jp/>

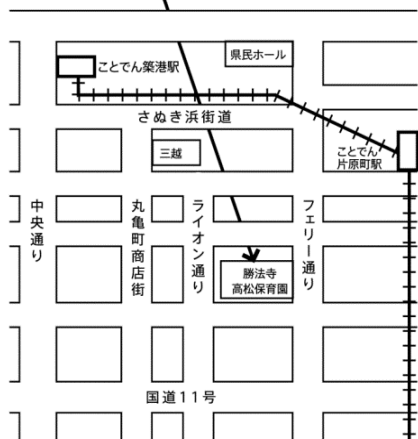
(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		8月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
8月 4日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って いっしょにあそびましょう。
8月 18日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て 体験においで下さい。
8月 18日	土	おとなアート 14:00～16:00	なすびの見た目の形でなく実が だんだん大きくなるように描き 進めます。(予約締め切り 8/14)
8月 24日	金	健康・育児相談 11:00～12:00	園医師(小児科医)にゆっくり 相談できます。(予約要)
8月 25日	土	地蔵盆のつどいにおいで! 15:30～18:00	縁日や人形劇、職員のトーン チャイムなどイベント色々です。 是非お誘い合わせておいで下さい。
8月 28日	火	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	パワフルで個性的な生活を さてれている須川南海子氏より 話を聞き、フリートークします。
8月 31日	金	おはなしの会 10:00～12:00	「夏のできごと!」をテーマに 絵本や手遊び、小物を使つての 楽しい会です。どなたでもどうぞ。

・火～土の9:00～18:00までは、園内開放して
いますので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

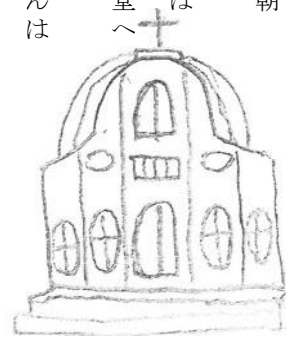
育児相談(月～土) 9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



青い空に
夏が来ました。
丸根の教会堂へ
父さん洋服は
丸根の教会堂へ
ゆきまの教会堂へ
白き前掛けは
母さん朝の新聞
四つ辻まで
売って朝の新聞
夏が来ました。
青い空に

金子みすゞ童話全集
「さみしい王女」下
JULA出版局



☆今月の内容—「ママさん110番(電話相談)より」

ママさん110番（電話相談）より

子どもをかわいいと思えない母

我が子をかawaiiと思えない。どうしたらいいか？という相談があります。以前からもこうした相談はありましたが最近のケースは、第1子が2～4歳の児、第2子が2、3か月～1歳未満の児を持つ母から、「どうしても上の子がかawaiiと思えない」という訴えが増えたと感じます。

第1子の育児経験から学び、気持ちに余裕も出て子育てが楽しくなって来たのに、そうした気分にも水を差す存在としての第1子。赤ちゃんを叩いたり、少しも目が離せない。授乳中は最悪で赤ちゃんともママの間に割り込んでの膝狙い。トイレも自立していたのに、お漏らしをする。どの相談者も、第1子に振り回されイライラが高じて「もう可愛くない！」と叩いてしまった。どうしても疎ましい思いを消せない。第1子は嫉妬し、赤ちゃん返りをしているのだから…。兄、姉だから我慢してとは絶対に口にせず、この子の気持ちを優先して要求にしっかり応えるという、ネットや育児書で得た情報で教科書通りに対応しているのに、こうした困らせ行動はエスカレートしてくる。

同様な状況下、上の子を虐待し児相に保護された、ベランダから投げた等の話は人ごととは思えない。自分もいつかするのではと不安を感じる。虐待しないまでも気持ちは良く解る。冷たい対応がトラウマになり、将来上の子の性格が歪むのではと心配にはなるが怒りを抑えられない。

母として幼い第2子を本能的に守ろうとする意識が強く作用してしまう時期です。涙声での訴えに傾聴を主体にしつつも、子の成長と共に改善されると見通しを話し、上の子への過剰な気遣いや情報を鵜呑みにせず、子の思いに寄り添いながら対応すること。時にはメリハリのある叱り方も大切。外出が制限され、ストレスが溜まってしまう第1子との体を動かす遊びの紹介やお手伝いへの誘いなど、自己肯定感と共に兄姉としての自覚が芽生える対応について話し、疲れきって対応を考えるのも困難そうな母には、一時保育やファミリーサポーターの利用を勧めています。少子化の中、2人、3人を育てている母が、産んでよかったと思えるような支援が求められていると感じています。

実母には頼れないママ

現代は人間関係が希薄になり、家族でさえ各々が孤立していると言われますが、そうしたことを実感する相談内容があります。

事例：39歳の母、子1歳

「出産後体調不良が続き、子育てに疲れてしまった。転居したばかりで地域にママ友もできず、夫も仕事で忙しい。愚痴を聞いて欲しくて、実家の母に電話した。

すぐに来てくれたが、話を聞くより先に溜まった家事を始末し、子どもへの対応や生活スタイルにまで口を出し、母は全部一人でやりとげたとプレッシャーを与えるばかり。大喧嘩の末、怒って帰ってしまった。今までも、ゆっくり話を聞いてもらった記憶はなかったと思い出し、私は孤独で寂しい。」



事例：母32歳、子4歳

「息子は自己主張が強く素直に言うことを聞いてくれず、ついイライラして怒鳴ってしまうことが多く、怯えた様子にはっと我に返る。相談者自身、実母に枠に嵌められ何でも「ダメ」と決めつけ、規制が多く息苦しかった。嫌で仕方なかった母と同じことをしている私。子どもに嫌われてしまったのではないかと不安になり涙声。」

どちらも少子化が顕在化し、バブル経済期の中で親から過剰な期待感を負わされ、先々までルールを敷かれ、過干渉に育てられた経験が強く記憶の底にあるママたちです。

反面教師にして自分はこうはならないと思ってきたのに、同様な育て方をしていると気づき、どうしたら良いか判らないという、実母との確執から来る相談も増えていると感じています。

最近では家族間での殺傷事件も真新しいことではなくなって来てしまいました。人間関係の基礎、子どもにとって人への愛着、信頼を学ぶ始めの一步であるべき、母との関係再構築は重くて難しい相談ですが、真摯に傾聴し、子どもを大切に思うあまり、先回りしてしまう親の心情を代弁しつつも、母と同じ轍は踏みたくないと感じたことが、子どもへの対応を考えるチャンスと励ましています。

男性の育児休業とは

事例：第1子の1歳女兒、東京の40代の母

「先日胆嚢^{たんのう}を摘出する手術を行い、2週間前に退院。主人は会社員で、日中は子どもと2人の生活です。術後間もないためか体力が無く、家事も思うようにこなせません。子どもは可愛いのですが、抱っこを求められても抱くことができず、泣き続ける子どもの傍らで自分も泣きたいと思うようになり、イライラします。

実家の母は常勤で働いているため手伝ってもらえず、ファミリーサポーターにでも手伝ってもらいたいのですが、夫は大反対。来週、夫が2週間出張するので、せめてその間だけでも手伝ってもらいたいと思うのですが、夫に（子どもを全く他人に預けるのは無責任）と言われ、大喧嘩になりました。母親が傍で見守っていても、子どもの世話を他人に頼むというのは、そんなに無責任な事なのではないでしょうか？とにかく体力が無く、子どもに求められも抱く事ができず、このままでは母子共につぶれてしまいそう…」との相談です。

胆嚢摘出の原因は、本人があまり話したがらない様子でしたので、詳しく聞き直しませんでしたが、摘出術を行ったという事は、簡単な病気とは思えないようです。術後もあまり日が経っておらず、母親の疲れも当然の事と思われれます。夫が反対しても、もう暫くは、人手を頼むのもやむを得ないでしょう。できれば、夫と共に主治医を訪ねて、直接現在の状況を説明していただき、主治医から手伝いの必要性を話していただくか、可能であれば、お姑様から夫に話していただいてはどうでしょうか。また、土日実家のお母様に手伝いをお願いしたり、その時に、夫に話していただくのも良いかもしれません。

しかし、その前にやるべき事は、夫が育児休業を利用する事だと思われれます。何のために育児休業制度が成立したのかを、夫によく考えてもらう必要があります。そして出張の間は、お姑様の了解のもとにファミリーサポーターを頼まれると良いでしょう。今は、母親自身の健康、体力を取り戻し、1日でも早くお子さんを抱きしめてあげる事が大切なのでは…とお話をしました。

